

山陰近畿自動車道（佐津～府県境）懇談会（第2回）議事要旨

1. 懇談会の検討の流れについて

〈事務局より説明〉

懇談会の流れ及び第1回懇談会概要について
（質疑なし）

2. 地域の意見聴取（第1回）結果について

〈事務局より説明〉

第1回意見聴取の調査結果概要について

〈主な意見〉

- ・ 自由意見は、質問毎に対する意見を集約して整理する方がわかりやすい。
- ・ 田鶴野地区区長会から豊岡土木事務所に「下鶴井 IC 実現の要望書」が提出された。

〈まとめ〉

- ・ 第2回意見聴取によって寄せられる意見や地域からの要望を、今後の議論に反映させたい。

3. 政策目標の設定及び比較ルート帯（案）について

〈事務局より説明〉

ルート帯案の検討の流れ、複数ルート帯案とその比較について

〈主な意見〉

- ・ 高規格道路と一般道（の活用）を組み合わせることで、制約を緩和して政策目標をクリアできる。
- ・ 城崎の孤立化や大雪などの災害に強い道路の機能を優先すると、コストが高くてもトンネル区間を長くして、城崎に直結あるいは城崎温泉の北側を通るルートの検討が必要。
- ・ ジャンクションは一般道に出入りできないことを一般の方にわかりやすくすべき。
- ・ 観光振興の視点では、ルート帯案の時間短縮の差はどの案でも大きな影響はなく、むしろインターが観光地に近接すると情緒的につっかり感を及ぼす懸念がある。
- ・ コウノトリへの配慮、道路整備による生活環境の変化、それに伴う住民感情などへの配慮、景観の改変、観光インフラの長期的な変容への対応についても意識すべき。
- ・ 防災面では安全性の評価と、災害対策上の機能性の評価がある。どのルート帯でも、洪水に対する想定氾濫区域との関係は問題ない。津波に対しては想定影響範囲から外れるため、評価は被害想定地域へのアクセス性である。内陸地震は未発見の断層

が原因となることもあるため、178号の代替性という観点では、近接しない案が良いと言える。災害対策上の機能性では、但馬空港など県の広域防災拠点のアクセシビリティが重要だが、部隊進出や物資輸送での1, 2分程度の時間短縮差は気にしなくてもよい。

- ・ 防災面について、地域の方々の災害への不安軽減や高速道路の活用性について、各案を評価してもらえるような意見聴取方法が良い。
- ・ 豊岡市が誇る救急医療について、高速道路整備によりどれくらい良くなるのか。
- ・ 要望書が提出された下鶴井のインターがクローズアップされるのは疑問。
- ・ クリーンパーク北但付近は狭くインター設置が可能かは疑問。(観光面からみると) 竹野のインターチェンジはできる限り海岸に近い方がよい。
- ・ 山陰近畿道は海岸沿いを東西につなぎ、南北の北近畿豊岡道とはつながずに、一般道の整備による対応はできないか。
- ・ 海岸沿いのルートは、地形上、構造的に困難であり、延長が長く3案に比べ政策目標の達成が不利。
- ・ 昨冬の大雪を経験し、観光客が集まる城崎地域につながる強い道路が必要である。円山川左岸側の県道はJRと円山川に挟まれており、これ以上の拡幅は困難である。

〈まとめ〉

- ・ 地域の政策課題を解決する案として3案が提示されており、1つの案に絞られた時に各政策目標の達成度が十分ではない場合には補完的な施策の条件がつけられる。
- ・ 基本的な命題は、広い範囲での道路ネットワーク形成であり、北近畿豊岡道ともネットワークを形成するという基本的な考え方を踏まえ、地域の方々に意見を聴く。

4. 地域の意見聴取（第2回）方法について

〈事務局より説明〉

- ・ 対象者、質問内容などの意見聴取方法について

〈主な意見〉

- ・ 委員から意見のあった景観への配慮について、地域の方々に聞く方がよい。
- ・ 防災関連の「地域防災拠点」や「災害時の孤立を防ぐ道路ネットワークの構築」という言葉をわかりやすくすべき。
- ・ 災害関係では速達性よりも確実性が優先と考えられるので、意見の聞き方を検討すべき。
- ・ 3案に絞られた理由を追記すべき。

〈まとめ〉

- ・ 9つの質問を基本とし、指摘事項を踏まえ、会長と事務局で最終案を作成する。

以上